

京丹後市立病院改革プラン

評 価 調 書

弥栄病院

項目		目標	H29 実績	自己評価	H30 実績	自己評価	点検・評価意見
大	中						
地域医療構想を踏まえた役割の明確化	地域医療構想を踏まえた果たすべき役割	かかりつけ医的な役割も踏まえた、入院、外来の受入れに加え、二次救急医療機関としての救急患者の受入れ	改築整備中は外来患者に対し不便にならないよう、仮設玄関の設置や玄関前に職員を配置するなど最大限配慮し、また接遇研修を行うなど、丁寧な患者対応に努めた。 入院患者数 59,119人(前年度比 828人増) [B] 外来患者数 98,101人(前年度比2,415人減) [B] 小児患者数 3,247人(前年度比 465人増) [A] 救急患者数 4,524人(前年度比 13人増) [A]	B	常勤医の退職などにより、内科医体制が手薄となり、入院患者数が大きく減少した。既存施設の解体及び外構整備については、可能な限り患者の院内への出入りについて不便にならないよう、誘導員を配置しするなど配慮した。また、平成30年11月の全工事完了以降は、新施設の玄関に職員を配置するなど館内の案内に配慮した。 入院患者数 52,843人(前年度比6,276人減) [B] 外来患者数 98,025人(前年度比 76人減) [B] 小児患者数 3,459人(前年度比 212人増) [A] 救急患者数 4,265人(前年度比 259人減) [B]	B	
		市内唯一で、丹後医療圏最大規模のお産施設の堅持	妊婦の救急受入や診察・相談に応じ、不安解消や適切な医療の提供に努めた。 助産師外来では妊婦健診や母乳相談など実施 分娩数 318件(前年度比33件減) [A] 助産師外来 1,712件(前年度比222件増) [A]	A	常勤産婦人科医師の逝去もあり、分娩数は249件に減少したが、京都府の取組みにより令和元年度から京都大学から常勤産婦人科医師、小児科医師が派遣される枠組みを構築できた。助産師外来として妊婦健診や母乳相談などに積極的に取り組み、安心した出産・子育ての実現に努めた。 分娩数 249件(前年度比69件減) [B] 助産師外来 1,023件(前年度比689件減) [B]	B	
		100歳以上の高齢者が全国比率より高い地域の特色に応える「長寿医療」として、もの忘れ外来、精神科、整形外科、眼科、リハビリテーションなどの展開	弥栄病院の特徴を活かした医療を展開した。 眼科手術（白内障手術など） 617件 整形外科手術（人工関節置換術など） 250件 もの忘れ外来 225人(前年度比 0人増) [B] 精神科 1,906人(前年度比 247人増) [A] 整形外科 31,705人(前年度比 1,350人減) [B] (入院10,616人、外来21,089人) 眼科 18,357人(前年度比 629人減) [B] (入院 1,475人、外来16,882人) リハビリテーション 611人(前年度比 17人増) [A]	B	質の高い患者本位の弥栄病院の特徴を活かした医療を展開した。 眼科手術（白内障手術など） 609件 整形外科手術（人工関節置換術など） 228件 もの忘れ外来 226人(前年度比 1人増) [B] 精神科 3,122人(前年度比 1,216人増) [A] 整形外科 28,732人(前年度比 2,973人減) [B] (入院7,791人、外来20,941人) 眼科 17,611人(前年度比 746人減) [B] (入院 1,514人、外来16,097人) リハビリテーション 771人(前年度比 160人増) [A]	B	
		循環器疾患などの生活習慣病への対応や人工透析の実施	循環器内科では、H28年度に更新した循環器系X線透視診断装置によるカテーテル検査・治療を行った。 カテーテル検査・治療 267件(前年度比234件増) [A] 生活習慣病予防検診 1,011件(前年度比 10件増) [B] 透析患者数 9,957人(前年度比247人増) [B] (入院1,804人、外来8,153人)	A	平成28年度に更新した循環器系X線透視診断装置によるカテーテル検査・治療は医師の退職により半減した。 カテーテル検査・治療 147件(前年度比120件減) [B] 生活習慣病予防検診 1,070件(前年度比 59件増) [B] 透析患者数 10,947人(前年度比990人増) [B] (入院2,915人、外来8,032人)	B	
	在宅医療センターを中心とした、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションなどの在宅医療の展開、また高齢者福祉施設、へき地診療所への医師派遣支援	地域から必要とされる診療体制の確保に努めた。 訪問診療 129人(前年度比 31人減) [B] 訪問看護 10,524人(前年度比 904人増) [A] 訪問リハビリテーション 413人(前年度比 11人減) [B] 医師派遣（福祉施設） 240回 医師派遣（野間診療所） 51回 医師派遣（五十河診療所） 39回 医師派遣（宇川診療所） 262回	A	地域から必要とされる診療体制の確保・充実に努めた。 訪問診療 136人(前年度比 7人増) [A] 訪問看護 11,091人(前年度比 567人増) [A] 訪問リハビリテーション 338人(前年度比 75人減) [B] 医師派遣（福祉施設） 149回 医師派遣（野間診療所） 50回 医師派遣（宇川診療所） 1回	A		

京丹後市立弥栄病院改革プラン評価調査

【弥栄病院】

項目		目標	H29 実績	自己評価	H30 実績	自己評価	点検・評価意見
大	中						
地域医療構想を踏まえた役割の明確化	平成37年(2025年)における具体的な将来像	現在の老朽化した施設を平成30年秋の完成を目途に、改築整備事業を進める	平成29年10月に新棟建設の第1期工事を終了し、平成29年11月27日に新棟の供用を開始。その後既存棟改修等の第2期工事に入り、平成30年秋期の全面完成へ向け工事を進めることができた。	A	既存建物の除却と外構工事等を行い、11月25日に全面完成の記念式典を迎えることが出来た。	A	
		当院と京都府立医科大学による共同研究講座「長寿・地域疫学講座」を設置し、予防医学、地域医療学に関する研究活動を進める	平成29年8月から長寿健診を実施した。契約はH27年12月～H30年11月までの3年間。 長寿健診（8月～3月） 100人	A	長寿健診を実施した。平成30年4月には、第1回の中間報告会を市内で開催し、長寿研究の進捗状況を説明するとともにさらなる受診を呼び掛けた。 長寿健診 357人	A	
地域包括医療・ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割		①二次救急医療機関として、HCUを併設する急性期病棟	①HCU（高度治療室）を新棟A3病棟に配置 [A]	A	①HCU（高度治療室）を新棟A3病棟に配置した。年間の救急からの入院患者として、582人を受け入れた。 [A]	A	
		②京都府立医科大学附属北部医療センターなどの急性期病院から、急性期を脱した患者の転入の受け皿となり、リハビリテーションの実施と地域医療連携室が関わり介護・福祉分野と連携の上、在宅サービス提供体制を整えた段階で在宅復帰を目指す回復期病棟としての役割	②在宅医療センターを核として、野間、五十河、宇川のへき地診療所や福祉施設への医師の派遣、また訪問診療、看取りを積極的に行った。また、地域包括ケア病床については、地域医療構想で丹後医療圏に今後必要と謳われており、また回復期の患者の受け入れが必要であることから、導入について検討を行った。 [A]		②在宅医療センターを核として、野間、宇川のへき地診療所や福祉施設への医師の派遣、また訪問診療、看取りを積極的に行った。また、地域包括ケア病床については、A4病棟53床のうち18床を充て、平成31年1月から稼働させた。この施設基準の変更に伴い、病院全体の病床数を1床減らし、199床とした。 [A]		
住民の理解のための取り組み		③産婦人科関係は、分娩、女性疾患に加え、内科、眼科疾患の入院患者のうち、女性の入院患者を受け持つ女性病棟も併設	③B2病棟に女性病棟を設置 [A]	A	③B2病棟に女性病棟を設置 [A]	A	
		④出前講座など、スタッフが地域に出向いての講演等の開催	④出前講座は、救急看護認定看護師等による、救急救命法講習会を19回、助産師による性教育講演会を12回開催するなど、積極的に地域に出向くことができた。 [A]		④出前講座は、救急看護認定看護師等による、救急救命法講習会を16回、助産師による性教育講演会を8回開催するなど、積極的に地域に出向くことができた。 [A]		

項目		目標	H29 実績	自己評価	H30 実績	自己評価	点検・評価意見
大	中						
経営の効率化	民間的経営手法の導入	病院の経営にかかわる様々な指標のデータを集めて分析し、他の同規模病院などと比較することにより経営状況や能力を実証的に且つ客観的に把握し、病院経営改善に努める	①資金管理に留意しつつ病院運営に努めたが、施設整備にかかる費用が増え、資金が減少した。 [B] ②毎月、経営コンサルタントとの協議を重ねながら収益増加への方法を模索した。 [B] ③毎月の会議において経営状況を幹部職員、各部署長に周知し収益改善の意識改革を図るとともに、医師についても毎月の医局会議にて査定、返戻の状況を説明し、収益改善を図った。 [B]	B	①資金管理に留意しつつ病院運営に努めたが、施設整備にかかる費用が増え、資金が減少した。 [B] ②毎月、経営コンサルタントとの協議を重ねながら収益増加への方法を模索した。 [B] ③毎月の会議において経営状況を幹部職員、各部署長に周知し収益改善の意識改革を図るとともに、医師についても毎月の医局会議にて査定、返戻の状況を説明し、収益改善を図った。 [B]	B	
	事業規模	医業収益の見込み、必要看護師数やその他経費などシミュレーションを行い、病院に必要な規模・病床機能の見直しを検討	地域包括ケア病床導入の検討を行った。転床する病棟・病床数、及び収益をシミュレーションし、また必要職員等の検討などを行った。 [B]	B	地域包括ケア病床を18床導入し、平成31年1月から運用を開始、病床コントロールの柔軟化を図った。導入条件としては施設基準として総病床数が200床未満とされているため、1床減らし総病床数を199床とした。 [A]	A	
	経費削減・抑制対策	①経営コンサルタントの活用による経費削減等の対策 ②新棟整備において、全照明のLED化、断熱性に優れた建材など省エネに配慮し、太陽光発電パネルを設置するなど、コストの抑制を図る ③常勤医師を充実し、非常勤医師体制を見直し ④ジェネリック医薬品への効率的な切り替え ⑤医薬品の両病院共同による価格交渉	①適正な価格情報の提供により、医療機器等の購入費を6,000千円を削減。また、SPD業者と一体となって医療材料の価格交渉を行い、1,500千円の経費を削減した。 [A] ②新棟整備においてコスト抑制を実施した。 [A] ③外科の常勤医師不在は解消されず、収支計画の医師確保予定12人に対し人員が1人充足出来なかった。 [B] ④院内の薬剤審議会等でジェネリック医薬品への切り替えを検討し、可能なものは移行した。 [B] ⑤久美浜病院が主体となり、経営コンサルタントと一緒にディーラー及びメーカーと医薬品購入の価格交渉を行った結果、購入価格を削減できた。 [A]	B	①適正な価格情報の提供により、医療機器等の購入費を3,000千円削減。医薬品の値引き額約10,000千円。また、SPD業者と一体となって医療材料の価格交渉を行い、2,000千円の経費を削減した。 [A] ②新棟整備においてコスト抑制を実施した。 [A] ③外科の常勤医師不在は解消されず、収支計画の医師確保予定14人に対し人員が6人充足出来なかった。 [C] ④院内の薬剤審議会等でジェネリック医薬品への切り替えを検討し、可能なものは移行した [B] ⑤弥栄病院が主体となり、経営コンサルタントと一緒に、ディーラー及びメーカーと医薬品購入の価格交渉を行った。 [A]	B	

項目		目標	H29 実績	自己評価	H30 実績	自己評価	点検・評価意見
大	中						
経営の効率化	収入増加・確保対策	①病床機能の転換(病床の一部→地域包括ケア病床) ②診療報酬の請求漏れ対策、査定減の防止 ③診療報酬加算基準の検討・取得及び職員採用・配置 ④未収金に係る法的対応の実施 ⑤地域の実情に合わせた外来診察や健康診断業務等の充実 ⑥計画的・継続的な認定看護師(認知症看護など)の資格取得の推進	①次年度実施に向けてH29年度に地域包括ケア病床導入の検討を行った。 [B] ②診療報酬査定後の再申請の実施、また査定減にならないためのカルテ記載内容の統一・指導を行った。 [B] ③H29年度に医療安全対策加算1、感染防止対策加算1、療養環境加算の取得を行った。 [A] ④未収金について対象となる悪質な未納者がいなかったため法的対応は未実施。 [A] ⑤高齢者割合の高い地域の実情に合わせ循環器、眼科、整形外科、精神科などの診療、健診業務を実施した。 [A] ⑥医療安全管理者研修、認定看護師管理者研修、看護管理者研修などの研修へ職員を派遣した。 [B]	B	①平成30年に地域包括ケア病床を導入し、平成31年1月から稼働させることができた。 [A] ②レセプト請求時に委託業者のチェックシステムを通すことにより、適正請求の精度を上げる取り組みをしたほか、毎月の医局会議で査定、返戻ケースを医師全体で研究し、査定としないカルテ記載とすることなど取り組んだ。 [B] ③平成30年度中に地域包括ケア、特定疾患指導管理料、特定疾患処方料など7件の施設基準、加算を取得した。 [A] ④未収金については、対象となる悪質な未納者がいなかったため法的対応は未実施 [A] ⑤高齢者割合の高い地域の実情に合わせ、循環器、眼科、整形外科、精神科などでの外来診察や健康診断業務等を実施した。 [A] ⑥医療安全管理者研修、認定看護師管理者研修、看護管理者研修などの研修へ職員を派遣した。 [B]	B	
	人材育成	①地域医療研修医の積極的な受入れ(京都第一赤十字病院、第二赤十字病院、神戸市立医療センター中央市民病院) ②看護、リハビリテーションなどの実習研修の積極的な受入れ ③教育研修体制の充実	①京都第一赤十字病院 4人×1ヶ月 京都第二赤十字病院 5人×2ヶ月 神戸市立医療センター中央市民病院 13人×1ヶ月 [A] ②実習などの受入実績 [A] ・看護、助産 63人 日星高校、京都橘大学、明治国際医療大学など ・訪問看護 10人 京都府立看護学校 ・消防本部救急救命士研修 44人 消防本部、与謝宮津消防 ・リハビリ(理学療法、作業療法、言語聴覚) 6人 佛教大学、京都橘大学、藍野大学など ・視能訓練士実地研修 1人 洛和会京都厚生学校 ・薬剤師実地研修 1人 神戸薬科大学 ・喀痰吸引研修 3人 虹ヶ丘 ③教育・推進センター長を設置し、研修体制の充実を図った。 [B]	A	①京都第一赤十字病院 6人×1ヶ月 京都第二赤十字病院 4人×2ヶ月 神戸市立医療センター中央市民病院 15人×1ヶ月 [A] ②実習などの受入実績 [A] ・看護、助産 68人 日星高校、京都橘大学、明治国際医療大学 京都学園大学、大阪病院協会など ・訪問看護 8人 京都府立看護学校 ・消防本部救急救命士研修 43人 京丹後市消防本部、与謝宮津消防組合消防本部 ・リハビリ(理学療法士) 3人 佛教大学、京都橘大学、藍野大学 ③教育・推進センター長を設置し、研修体制の充実を図った。 [B]	A	

京丹後市立弥栄病院改革プラン評価調書

【弥栄病院】

項目		目標	H29 実績	自己評価	H30 実績	自己評価	点検・評価意見
大	中						
経営の効率化	その他	<p>①新専門医制度への対応(京都府立医大学、京都第一赤十字病院、京都第二赤十字病院の協力医療機関)</p> <p>②働きやすい職場を目指したワークライフバランス調査の実施</p> <p>③医師事務作業補助員の継続的な配置</p>	<p>①新専門医制度に係る内科専門医協力医療機関の指定 [A]</p> <p>②看護協会のワークライフバランスのワークショップ事業に参加し、院内調査も実施のうえ働き続けられる職場づくりに取り組んだ [A]</p> <p>③医師の診療の負担軽減を図るため電子カルテの入力作業などに積極的に補助員を配置した [A]</p>	A	<p>①新専門医制度に係る内科専門医協力医療機関の指定 [A]</p> <p>②看護協会のワークライフバランスのワークショップ事業に参加し、調査に基づき働き続けられる職場づくりに取り組んだ [A]</p> <p>③医師の診療の負担軽減を図るため電子カルテの入力作業などに積極的に補助員を配置した [A]</p>	A	